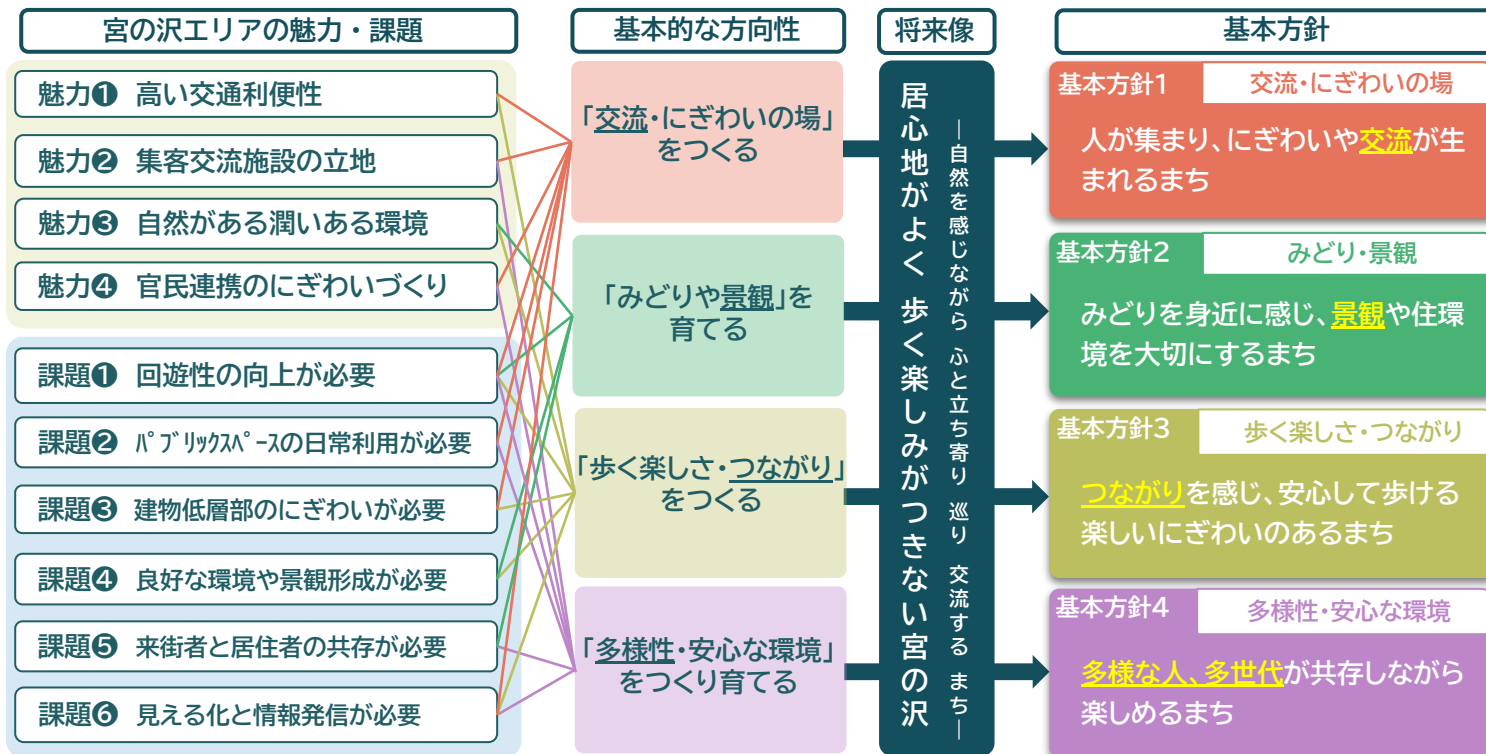


第3章 将来像と基本方針

⇒宮の沢エリアの魅力や課題を踏まえ、まちづくりを進めていく上での基本的な方向性、将来像、基本方針を整理しました。

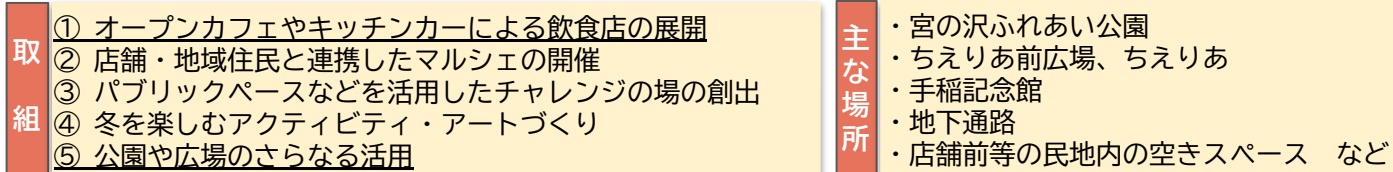


第4章 基本方針に基づく取組

⇒第3章で整理した基本方針を実現するための主な取組について示します。

4-1 基本方針1：人が集まり、にぎわいや交流が生まれるまち

公園や広場などの公共的空間を活かし、だれでも立ち寄れる居場所を増やすことで、人の滞在や交流が生まれ、にぎわいあるまちをつくっていきます。



取組① オープンカフェやキッチンカーによる飲食店の展開

店舗前のオープンカフェや、公園や広場のキッチンカーなど飲食店の展開を検討し、飲食をきっかけに人が立ち止まり会話が生まれ、滞在時間が延びるような交流の場を創出します。



ちえりあ前広場の社会実験

取組⑤ 公園や広場のさらなる活用

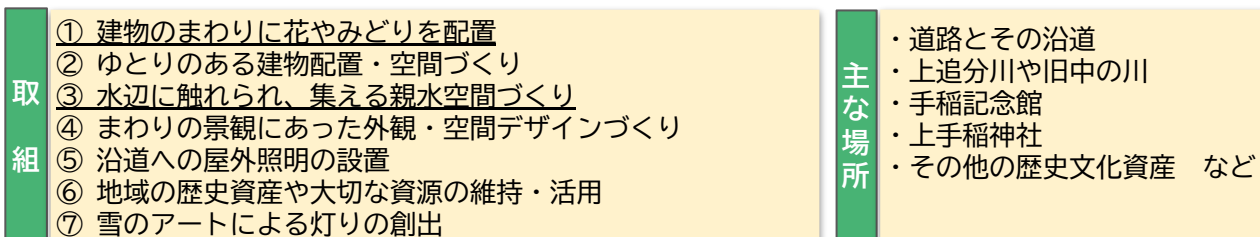
公園や広場において、民間の活力・ノウハウも生かし、人が集う、賑わいの場として、活用していくことを検討します。



百合が原公園LiLiLi（札幌市HP）

4-2 基本方針2：みどりを身近に感じ、景観や住環境を大切にするまち

公園や広場、建物まわりの花やみどりを活かしながら、日常の中で自然や季節を感じられる、宮の沢らしい景観や良好な住環境をつくっていきます。



取組① 建物のまわりに花やみどりを配置

住宅や店舗前に花壇やプランターなどを配置し、花やみどりを増やす取組を増やすことで、景観を向上させ、歩く楽しさやまちへの愛着・心地良さを高めていきます。



札幌市役所前おもてなし花壇

取組③ 水辺に触れられ、集える親水空間づくり

河川空間において、散策や休憩ができる親水空間の整備や活用を検討します。気軽に立ち寄れる環境を整えることで、暮らしの中にゆとりが生まれることを目指します。

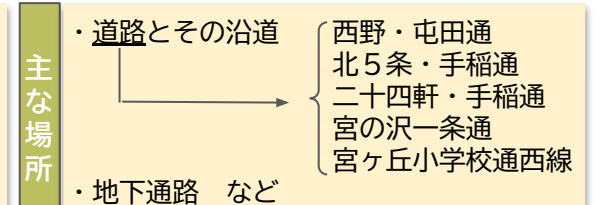


豊平川での川見（かわみ）

4-3 基本方針3：つながりを感じ、安心して歩ける楽しいにぎわいのあるまち

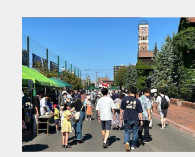
主要な施設や資源をつなぐ動線を意識し、安全性や回遊性、沿道のにぎわいを高めることで、歩くこと自体が楽しくなるまちをつくらしていきます。

- 取組
- ① 建物低層部の開放的な空間づくり
 - ② にぎわいを生む店舗等の誘導
 - ③ 花・みどり・灯りによる沿道演出
 - ④ ベンチやテーブルで一息つける通りづくり
 - ⑤ 歩行者天国などによる通りの活用
 - ⑥ 安全・安心な移動環境の向上
 - ⑦ 回遊ルートづくりとまち歩き企画



取組⑤ 歩行者天国などによる通りの活用

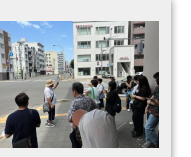
一定期間、道路を歩行者中心の空間として活用し、安全性を確保しながら、イベントなどによる交流や滞在の場を創出し、にぎわいの可能性を広げていきます。



コンサふれあい通り歩行者天国

取組⑦ 回遊ルートづくりとまち歩き企画

地域団体等と連携しながら、公園、歴史資産などを結び回遊ルートを設定し、まち歩き企画などを検討・展開し、歩いて巡る楽しさを通じて魅力を感じられるようにします。

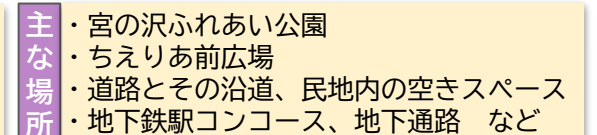


まち歩きルートの検討・試行

4-4 基本方針4：多様な人、多世代が共存しながら楽しめるまち

地域住民や来街者、若者から高齢者など多様な人、多世代が、安心して暮らせる・安心して来街できる環境づくりなどにより、誰もが居心地のよいまちをつくっていきます。

- 取組
- ① 観光客の適切な案内・誘導、回遊性の向上
 - ② 誰もが過ごしやすいユニバーサルの推進
 - ③ 居心地のよい公園・広場の維持・整備
 - ④ オープンカフェやキッチンカーによる飲食店の展開（再掲）



取組① 観光客の適切な案内・誘導、回遊性の向上

駅構内や各施設等への誘導サインの適切な表示や、利便性向上のための多言語化、回遊性を向上させるための案内サインの充実等について検討します。



デジタル案内板

取組② 誰もが過ごしやすいユニバーサルの推進

地域住民、来街者問わず、誰もが円滑に移動でき快適に利用できるように、移動経路や建物において、官民連携し、協働によるバリアフリー化を進めます。



建築物のバリアフリー化

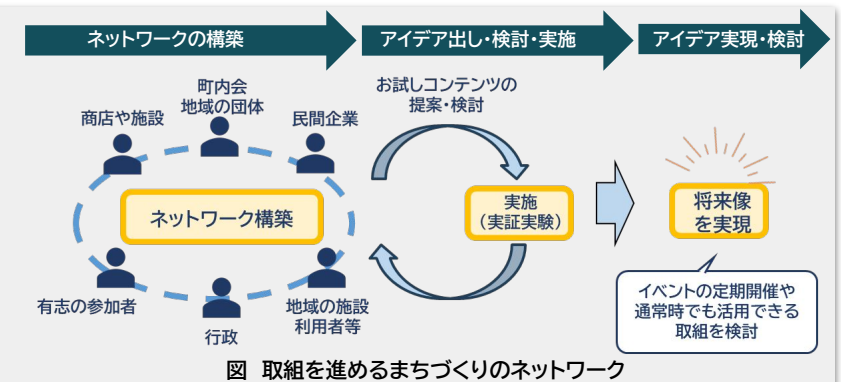
第5章 まちづくりの推進

5-1 まちづくりのネットワーク

まちづくりを進めていくには、地域住民、地域団体、事業者、行政が連携・協力することが重要です。これまで実施したワークショップ等の意見でも連携の大切さやまちづくりに関わりたいという意見が多数出てきています。右図のようなネットワークづくりや、繰り返し試行を実施し、最終的な将来像の実現につなげていきます。



←地域住民や地域団体、企業など多様な立場の方々が参加するワークショップ（宮の沢ミライ☆ラボ）



5-2 まちづくりを推進する情報発信・情報共有

まちづくりを継続的に進めていくには、取組の内容や進捗をわかりやすく伝え、多くの人が「知る」「関わる」きっかけをつくるのが重要です。多様な媒体を活用した情報発信や、まちづくりに関わる方々との情報共有を大切にし、双方向のコミュニケーションを通じて、取組を推進することを目指します。

①多様な媒体を活用した情報発信

ウェブサイトやSNSなどを活用して、宮の沢のまちづくりに関する情報を発信します。
【主な媒体】ウェブサイト・SNS/チラシ・ポスター など

②まちづくりに関わる方々との情報共有

ワークショップや意見交換会、SNSなどを通じて、地域住民や事業者など様々な人たちとコミュニケーションを図っていきます。
【主な手法】ワークショップ/意見交換会/SNS など